





(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	株式会社みずほ銀行 事務センター②
	電 話 番 号 等	03-3596-5762
公表の 担当部署	名 称	株式会社みずほ銀行 戦略企画部
	電 話 番 号 等	

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/environment/activity/gas.html
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
	冊 子	冊子名：
入手方法：		
そ の 他	アドレス：	

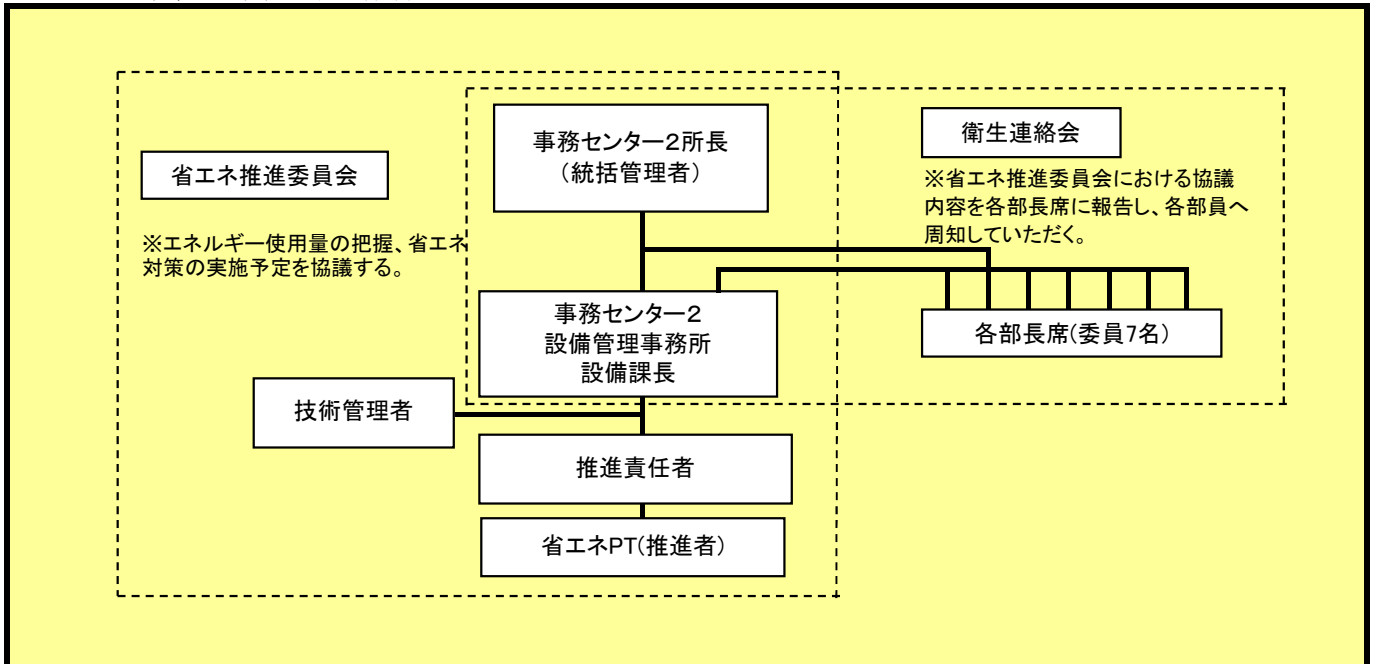
(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1974	年	4	月	1	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

〈みずほ〉では、「環境への取り組み方針」を定め、サステナビリティ推進体制の枠組みの中で、地球環境の保全に向けた取り組みをグループ一体となって推進しています。  
 持株会社であるフィナンシャルグループ（以下FG）が、グループ会社に対し、中期経営計画・業務計画において定めた温室効果ガス削減等も含む「サステナビリティ重点項目」（マテリアリティ）の提示や取組推進を指示。これを踏まえ、グループ会社において中期経営計画・業務計画を策定し、これに基づき実施した取り組み状況を、FGに報告し管理する体制を構築しています。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	積極的な高効率設備の導入、運用の改善により更なる削減を目標とする。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	現在の削減計画期間と同様に継続して節水を行うことで、その他ガスを現状の削減できた状態に維持する。		
削減義務の概要	基準排出量	21,968 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	91,170 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	17%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	積極的な高効率設備の導入、運用の改善により更なる削減を目標とする。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	第二削減計画期間と同様に継続して節水を行うことで、そのガスを現状の削減できた状態に維持する。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO <sub>2</sub> ）		12,105	11,754	11,868	11,262	
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）					
	メタン（CH <sub>4</sub> ）					
	一酸化二窒素（N <sub>2</sub> O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF <sub>6</sub> ）					
	三ふっ化窒素（NF <sub>3</sub> ）					
上水・下水		43	43	43	39	
合計		12,148	11,797	11,911	11,301	

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	283.0	274.8	277.5	263.3	

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2002年度、2003年度、2004年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2015 年度から 2019 年度まで
---------------------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	21,968	21,968	21,968	21,968	21,968	109,840
	削減義務率 (B)	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	
	排出上限量 (C = Σ A - D)						91,170
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						18,670
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	12,105	11,754	11,868	11,262		46,989
	排出削減量 (F = A - E)	9,863	10,214	10,100	10,706		40,883

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input checked="" type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	施設の運用による省電力化が進み、昨年度より年間排出量は約606t-CO2削減された。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	120200	12_冷凍機の効率管理	ターボ冷凍機更新、フリークーリング採用	2010年度	
2	120100	12_燃焼設備の管理	蒸気ボイラーの更新	2010年度	
3	130200	13_空気調和設備の効率管理	省エネVベルト	2010年度	
4	130300	13_換気設備の運転管理	外気量制御(空調機VAV+CO2制御)	2012年度	
5	150100	15_受変電設備の管理	トップランナー変圧器の採用	2014年度	
6	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具の採用(厚生棟厨房50台)	2010年度	
7	110100	11_推進体制の整備	人感センサーの導入(照明)	2014年度	
8	130200	13_空気調和設備の効率管理	MT保管庫空調機インバーター化	2010年度	
9	160200	16_建物の省エネルギー	屋上遮熱シート(130㎡)	2013年度	
10	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具の採用(7F:160台)	2014年度	
11	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具の採用(8F:203台、11F:39台)	2015年度	
12	150200	15_照明設備の運用管理	LED照明器具の採用(11F:165台)	2016年度	
13	120200	12_冷凍機の効率管理	ターボ冷凍機更新	2016年度	
14					
15					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
	【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】				
51					
52					
53					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
61					
62					
63					

## 8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

〈みずほ〉では、グループのCO<sub>2</sub>排出削減目標を設定し、温室効果ガス削減にグループをあげて取り組んでおり、国内の主要事業所を中心に、CO<sub>2</sub>排出量やエネルギー消費量の把握・削減およびその情報開示を積極的に行っています。

みずほ銀行では、CO<sub>2</sub>等排出削減に取り組むにあたり、営業拠点を含めた全社で取組みを強化していくことが重要であるとの認識のもと、受変電設備の高効率化、照明設備の高効率化（含むLED）、空調機の高効率化等8項目を「〈みずほ〉環境基準」として定め、営業店舗の新築・改修に合わせ、店舗毎の事情を踏まえて基準の適用を検討してまいります。

こうした自社の環境負荷低減への取組みと合わせ、〈みずほ〉は、気候変動のリスクと機会、事業活動への影響を認識し、脱炭素社会への移行に向けて再生可能エネルギー事業へのファイナンス等やグリーンボンド発行など、気候変動の緩和・適応に貢献する金融商品・サービス提供を積極的に推進してまいります。

### 【当事業所における取組み】

当事業所では下記の体制で取組み、地球温暖化対策結果報告書において、CO<sub>2</sub>基準排出比 $\Delta$ 4,702t-CO<sub>2</sub>(27%)の削減実績をあげることができました。

1. 当初計画の目標対策、運用対策について確実に実施し、排出量削減に努めている。
2. 照明の間引き、消灯、空調機の効率運転、機器の更新時の効率機器の導入等を実施し成果をあげている。
3. 総排出量については従来より機器負荷の稼働状況に依存していることから、H17年2月、機器負荷の軽減により基準年度と比較して温室効果ガスの排出量は大きく削減された結果となった。